

博士論文の要約

中国における大学評価に関する研究
-大学評価制度の成立及び実態の考察を中心に-

広島大学大学院教育学研究科
教育人間科学専攻（高等教育分野）
林師敏

本研究の目的は、中国の大学評価制度を考察の対象とし、その形成・変容の実態を明らかにするとともに、大学評価制度の課題やその改善策を提示することである。

本研究で扱う「中国における大学評価に関する研究-大学評価制度の成立及び実態を中心に-」というテーマは、これまで先行研究で言及されつつも、まだ議論が深められていない研究課題である。中国の大学評価における目的・主体・指標・方法に焦点を当てて評価制度内の変遷経緯の研究は、まだ深化されていない側面にある。また、第2ラウンド評価の進行中に当たり、現行の評価はいかなる課題を生じるか、それに対する研究は評価制度の改善に役立つが、先行研究は同様に評価実態の研究が不足していることにある。

第一は、中国の大学評価制度と評価目的、評価主体、評価指標、評価方法との関連はどのように歴史的に捉えられるか。

第二は、現行の中国の大学評価は、大学にいかなるインパクトを与えているか。また、それはなぜか。

第一章では、現代中国の大学評価はいかに導入され、当時の中国高等教育にいかなる効果をもたらしてきたかについて、1980年代の大学評価の導入の背景、大学評価に関する議論や政策の作成過程及びその評価活動の展開、1980年代の中国大学評価の特徴、効果と問題点を明らかにする。

第二章では、大学評価の制度的構造における評価理念、評価主体、評価指標と評価方法は大学評価の重要な構成要素であり、そこで本章では中国における大学評価の発足から2000年代の制度化までの流れを、これら4つの側面に着目し、大学評価制度がいかに形成されてきたかを検討する。

第三章では、中国の大学評価制度がなぜ変容、いかなる変更を行ったかを考察する上で、中国の新たな評価は既存システムの見直しと新たな仕組みの導入はいかに行われているかを理解できることになる。また、本研究は近年大きく変化しつつある国際的な大学評価のトレンドにより、中国が内発的発展という改革理念に基づき、外部評価と内部質保証の位置づけや課題を検討する。

第四章では、『中国の学士課程教育評価に関する報告書(2003-2008)』のデータに加え、教育部(2004)が公表した「学士課程教育評価に関する方案(試行)」(中国語:「普通高等学校本科教学工作水平評価方案(試行)」)における指標と採点基準を一次資料として、学士課程教育評価における全体レベルと基準レベルの結果考察、代表的な中項目の検討、まとめと課題、を考察する。

第五章では、事例大学の「本科教学質量報告」、評価実践の報道、インタビュー内容をもとに、大学評価(第2ラウンド)は中国の大学にいかなる影響や効果をもたらしてきたかを考察する。

終章では、これまでの各章の検討で見出された結果をまとめながら、再び問題関心に立ち返

り、この2つの問いについて考えてみる。

課題一の中国の大学評価制度の導入、成立と変容について、本研究は、第一・二・三章において、中国の大学評価制度の導入・成立・変容について考察・分析してきた。本研究は各章を通じてこうした課題を明らかにした。また、上述した中国の大学評価の導入、制度化・変容の考察にあたり、内発性（独自性）と外発性（舶来品や大学評価の国際的動向の影響）の相互受容、争いという特徴がみてとれる。ここでの内発性は大学評価における中国ならではの事柄の開発・研究を進めている様子がみられる。

課題二の現行の大学評価のインパクトについて、本研究は中国の事例に基づいて大学評価という国際的な課題を明らかにし、従来の研究の到達点を更新し、今までの評価制度との比較や現在の急速な変容、数値評価からの脱却、目的適合性に基づく評価の実施、評価に関する大学情報の公開など、現在中国の高等教育質保証の整備に関する最新の動向に関する知見を提供している。また、大学評価はまだ進行中であるが、大学へのインパクトに関する考察分析も、レベル別の大学の考察を通じて、新たな評価は大学による内部質保証の整備のみに促進してきたことが明らかになった。

本研究の新規性は、第1ラウンド評価を中心とした先行研究の到達点を更新し、「中国の大学評価制度」を歴史的に考察するのを通じて、中国の大学評価制度研究に独創的な知見を提供している点にある。一つは、第一章に示す通り、そもそもの中国の大学評価はいかに導入され・制度化されたかに関する知見を提供している。もう一つは、第三章に示す通り、中国の大学評価制度は新たな評価制度への変容経緯と新・旧評価制度の比較分析により、新たな評価制度に関する最新の知見を提供している。

評価制度の改善へのインプリケーションについて、本当の大学の目的に適合した評価を行うために、新たな評価手法による評価結果、コメント、発見した課題をフィードバックさせ、当該大学のこれからの大学教育改革に連携させることは大事な課題となる。また、教育政策や各種の教育プロジェクトに、いかに新たな評価手法による評価結果を受け止め、連携していくかが、新たな評価の目的適合性に従う機能の発揮に役立つに違いない。

中国の大学評価研究へのインプリケーションについて、本研究は大学評価制度研究、そして大学評価制度研究の評価目的、評価主体、評価指標と評価方法の4つの側面が実態における大学へのインパクトを検討するという意味で一貫性を持っている。評価制度研究に関しては、評価目的、評価指標、評価主体と評価方法という側面に絞っている詳細な制度分析が、中国の大学評価制度研究に豊かな研究視座を提供し、研究対象と研究内容を深めることに貢献できると思われる。

以上、中国の大学評価制度とりわけ評価制度における目的、主体、指標と方法について、歴史的な分析を踏まえ、制度的考察と実態的検討を加えてきた。言うまでもなく、言及しえた事柄

は部分的なものに留まり、触れることのできなかつた点も少なくない。最後に、「理論的分析枠組みによる研究の深化」と「より広範な実態調査研究の実施」という2つの課題を提起した。